



石転ビ沢の雪渓で、講師からピッケルの使い方を学ぶ参加者

夏山遭難事故 救助技術磨く

山形・飯豊連峰

本格的な夏山登山シーズンを前に山形、福島、新潟の3県にまたがる飯豊連峰で5月30、31の両日、救助・雪上技術訓練が行われた。山形県小国町の小国山岳会が主催。山形や福島、新潟などから約30人が参加した。

救助技術訓練では、ピニールテープやラップといった身近にある物を使い、止血の仕方など応急

処置法を実践。雪上技術訓練では、石転ビ沢の雪渓上で、ピッケルを使った滑落停止法などを学んだ。

小国山岳会副会長で飯豊朝日山岳遭難対策委員会の井上邦彦救助隊長は「飯豊連峰は夏でも雪が多く残り、滑落や落石事故など危険が多い。登山者は、しっかりした技術を身に付けてほしい」と話した。

飯豊連峰の山形県側の山開きは、7月4、5の両日行われる予定。